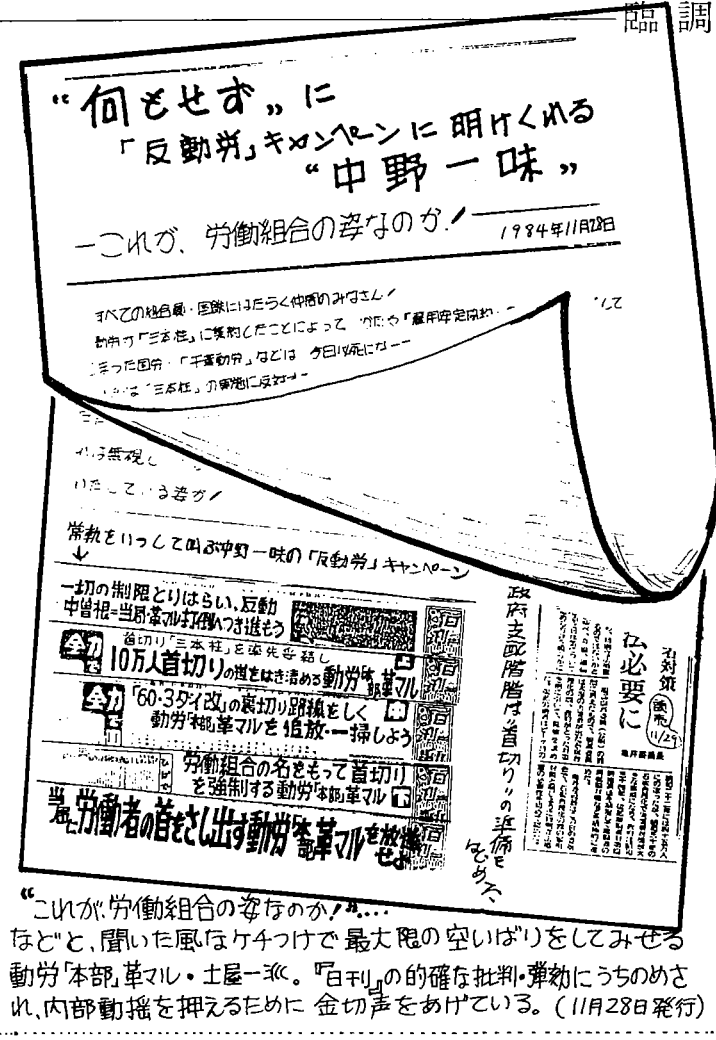


率先して『出向・帰休』を開始した 動労革マル・土屋一派

勝利！闘争ジェット 塚三里 砕粉革行 調臨



「これが、労働組合の姿なのか!...」
などと、聞いた風なけつつけで最大限の空いばりをしてみせる
動労「本部」革マル・土屋一派。「日刊」の的確な批判・弾劾にうちのめさ
れ、内部動揺を押えるために金切声をあげている。(11月28日発行)

「何とせず」に
「反動労」キャンペーンに明けくれる
「中野一味」
—これが、労働組合の姿なのか!— 1984年11月28日

すべての組合員・団体にほららく仲間のみなさんへ
動労「本部」革マルに賛同したことによって、この「雇用安定協約」
もった国分、「干渉動労」などは、今日既にロー
「本部」革マルの弾劾に賛同

「これが、労働組合の姿なのか!...」
などと、聞いた風なけつつけで最大限の空いばりをしてみせる
動労「本部」革マル・土屋一派。「日刊」の的確な批判・弾劾にうちのめさ
れ、内部動揺を押えるために金切声をあげている。(11月28日発行)

紙の弾丸 「日刊」の批判に動揺し悲鳴あげる 動労千葉界 デッキあげ

デッチ上げ「動労千葉地本」は、11月28日付の「何とせず」に「反動労」キャンペーンに明けくれる「中野一味」なる、およそ無内容のビラをまき、「日刊動労千葉で動労の裏切りなど弾劾するのはやめてくれ」と悲鳴をあげている。

われわれは、動労「本部」革マルが裏切り者であり、労働者の敵である以上、「反動労」キャンペーンなどという生やさしいものではなく、国鉄、否、日本労働運動から一掃するまで容赦なく闘う決意をあらためて宣言するものである。

当局と一体となつて、首切り「三本柱」を推進する動労「本部」革マル

「雇用・協約」の看板だけ掲げて、

三枚からなる「ビラ」は、反動的主張で貫かれている。

まず第一に、「今どんな現実が生み出されているか」の中で、「三本柱は3万人にもおよぶ余剰人員をなくす攻撃であるが、国労、動労千葉はドウカツなどにとらえるピンボケぶり、雇用安定協約破棄の事態を許し、当局の攻撃（指名解雇）を許す（ママ）基盤を喪失させた」などと、批判ならざる批判を行っている。

ここでの文章に限らず、「ビラ」全体の特徴としていえることは、理不尽な攻撃をかけてきている張本人である政府・自民党、国鉄当局に対する怒りが、ただの一言も語られていないことだ。

それは「動労旭川地本」が八月にまいいた、「この現実について討論を深めよう」なるビラの中で、「当局が打ち出した三本柱は政府、監理委が生首を切るうとしていっていることに象徴されるように、動労「本部」革マルと当局は「国鉄を国鉄として維持するため」に「一致協力」して「三本柱」を推進、合意してきた以上、当然のことといえる。

第二に、「雇用安定協約は不必要か」の中で、「雇用を守る道はあくまで労資の力関係であり、強固な団結力、組織力で闘う以外にない」と動労千葉の主張は一般論である。当局の狙いは雇用安定協約の破棄であり、指名解雇だから協約の維持締結が絶対に必要であり、動労は「三本柱に歯止め」をかける画期的闘いを実現した」としている。

動労「本部」革マルは、「雇用安定協約」を結べば、あたかも雇用が守れるかのように「協定」を絶対化している。しかし、当局がその気になれば「協定」などいつでも破棄してやってくることは歴史の事実が証明している。動労千葉の主張に対する「一般論」なる云い分けは、反論ならざる反論に「ごまかし」であり、文字通り雇用は労資の力関係以外のなものでもないのである。

今日の「国鉄」攻撃は、中曾根の「戦後政治の総決算」がかかった労働運動解体攻撃である。従って、革マルごときの交渉で攻撃に、歯止めがかけられる位なら、最初から「三本柱」など提案する意味がないではないか。

すなわち、動労「本部」革マルは首切り「三本柱」を受け入れたのだ。

そもそも、動労「本部」革マルが「歯止めをかけた」「画期的成果」と主張する「交渉記録抜粋」とはいかなるものか。

何度でもいおう。

「雇用安定協約の存続は、三本柱の有効な活用が前提」であることを労使で確認しているのである。「雇用安定協約」を結んでも、なにかは首切りを認めているのだ。

「画期的たたかい」など、全くのペテンであり、動労「本部」革マルは、「三本柱の実効をあげる」ために、すでに組合員の追い出しに首切りを開始しているのである。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!

(次号につづく)